

はじめに

情報技術の急速な進展に伴い、生活や学びのスタイルが大きく変化してきました。今やスマホやインターネットなしの生活は考えられなくなりました。また、学校現場では「GIGA スクール構想」のもと ICT の普及が推進され、コロナ禍がこれに拍車をかけました。Society5.0 時代の幕開けといわれています。

少し前になりますが、平成 30 年に文部科学省は「Society5.0 に向けた人材育成にかかる大臣懇談会」で学びの在り方の変革を提唱しました。ここでは、どのような時代の変化を迎えるとしても、知識・技能、思考力・表現力・判断力をベースとして学びに向かう一人ひとりの能力や人間性が問われることになる。特に共通して求められる力として、文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求心が必要であると提唱されました。

この学びの在り方の変革は、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められています。

今年度、私たち教育研究所は研修事業において、子どもたちの学びの転換とともに、「教師自身の学び」の転換を図る必要があると考えました。これまでの研修の在り方を見直し、「前例踏襲」になっていないか、「参加者を主語」とした学びになっていただろうか、と課題意識を持ち研修の制度設計に取り組みました。

また、研究事業につきましては、学校現場での「課題対応・解決力」の向上を目指し、今年度は「教育相談ハンドブック」を発行いたしました。本研究所の研究の成果をご一読いただき、参考にしていただくとともに、ご教示・ご意見を賜れば幸いに存じます。

なお、教育相談事業や適応指導教室事業につきましては、増え続ける不登校児童生徒および保護者に対する支援の拠点となるよう、来年度より「守山市教育支援センター」として分離独立し一層活動を充実させていくこととなっております。

守山市教育研究所として、来年度は大きな転機を迎えますが、今後とも、皆様とともに、子どもたちの豊かな学びの実現のために取り組みを進めて参りたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、研究をはじめ研修講座などでご指導、ご協力を賜りました皆様に、心からお礼申し上げます。

令和6年3月

守山市教育研究所長 脇阪 久徳